

## 1. 単元名 四角形をつくろう

## 2. 目標

- ・ 垂直、平行や台形、平行四辺形、ひし形の性質を既習の図形の性質をもとにして調べようとする。  
【関心・意欲・態度】
- ・ 辺の並び方、辺の長さ、角の大きさに着目して、四角形の性質について考える。  
【数学的な考え方】
- ・ 垂直、平行や台形、平行四辺形、ひし形を弁別したり、かいたりすることができる。  
【表現・処理】
- ・ 垂直、平行や台形、平行四辺形、ひし形の概念を理解する。  
【知識・理解】

## 3. 指導にあたって

## (1) 教材観

図形については、3年生で「長方形と正方形、直角三角形」4年生で「二等三角形と正三角形」を学習してきている。本単元では、台形、平行四辺形、ひし形など基本的な四角形の性質について調べ、理解することをねらいとしている。これまでの学習では、図形をとらえる視点として、「辺や頂点の数」「辺の長さ」「角の大きさ」に着目してきている。本単元では、「平行」「垂直」「対角線の交わり方や長さ」という新しい視点も加わることになる。そこで図形の基本概念となる「垂直」や「平行」の概念を明らかにして、その作図や弁別ができるようにする。そして、こうした活動をもとに「台形」「平行四辺形」「ひし形」の四角形についての性質を理解し、弁別や作図力をたかめることをねらいとして学習を進める。

四角形の学習では、タングラム・同心円の2つの円・色紙・パターンブロックなどを使って、いろいろな四角形をつくる活動を取り入れる。それらの活動を通して、四角形の性質の理解を深めるようにしたい。

## (2) 児童観

子供たちは、やる気いっぱい学習に取り組み、課題に意欲的に取り組む子が多い。「小数のかけ算とわり算を考えよう」の単元から自己評価カードを取り入れるようにした。すると、項目に「発表」があるために今まで発表できなかった子も何とか発表しようとする姿勢が見られた。授業の振り返りでは、「小数点のつけかたが分かった。」「小数第一位まで計算できるとは思わなかった。」など算数的な言葉を使って、本時の学習をふりかえることができる姿も見られてきた。個が活躍する場の設定では、友達と計算の仕方を交流してきた。自分の考えがなかなか持てなかった子が、友達の考え方を聞いてなるほどうれしそうにする姿も見られた。しかしやる気にも個人差があったり、交流の場面で自分の考えを伝えられなかったりする子もいる。

## (2) 指導体制と指導方法

「数と計算」領域では、習熟の差が大きいため習熟度学習集団として、じっくりコースとチャレンジコースに自ら選択して学習してきた。本単元の「図形」領域では、多様な考えを交流することが学習の深まりにつながると考え、単純分割で行う。作図をしたり、タングラムやパターンブロックで四角形を作ったりする活動を通して、楽しく学習に取り組めるようにしたい。また東明校区の道路から「垂直」や「平行」をみつけたり、身の回りから「垂直」「平行」「平行四辺形」「台形」「ひし形」の形を見つけたしたりする活動を通して、日常生活の中にこれらが数多く存在することに気づかせる。その活動を通して、図形に対する親しみや知的好奇心を喚起したい。

## (3) 評価部会の柱と本時の関わり

## &lt;やる気のでる自己評価&gt;

自己評価カードは、つきたい力を項目にあげて作成した。今日の力では、何の力を学習したのか子供たちがわかりやすいようにした。その力がどうだったか自己評価するようにした。その他の項目として、やる気・発表・自分の考えがもてたか・友達とかかわることができたか、を考えた。最後に今日の学習を振り返り感想を書くようにした。自己評価することにより子どもたちのやる気を育てたい。

## &lt;個が活躍する場&gt;

児童は、何らかの考えをもって学習に取り組む。しかし全体で意見を交流するときには、考えを発表する機会が少人数に限られてしまう。そこで、少人数の中で自分の考えを友達に伝える場面を設定したい。友達に自分の考えを分かりやすく伝えることができるようにしたい。また、どうしても考えが持てない児童は、友達に質問をすることにより自分の考えがあきらかになっていくようにしたい。

4. 指導・評価計画（総時数16時間）

小単元	時	目標	学習活動	主な評価計画
直線の交わり方	1	○垂直の概念を理解し、その弁別ができる。	<p>&lt;東明校区の道路の交わり方を調べよう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>三角定規の90°を使って調べてみようかな。</li> <li>分度器を使って調べようかな。</li> <li>直角に交わる2本の直線は、垂直である。</li> </ul>	<p>表B 垂直を弁別することができる。</p> <p>表A 理由をつけて平行を弁別することができる</p>
	2	○垂直の直線のひき方を理解する。	<p>&lt;垂直の直線のひきかたを考えよう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2まいの三角定規でどうやって垂直ができるかな。</li> <li>分度器も使えそうだな</li> </ul>	<p>表B 垂直な直線をひくことができる。</p> <p>表A 垂直な直線をどんな方向でも正確にひくことができる。</p>
直線のならび方	1	○平行の概念を理解して、その弁別ができる。	<p>&lt;東明校区の道路の並び方を調べよう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2つの直線の関係はなんだろう。</li> <li>1本の直線に垂直な2本の直線は、平行</li> </ul>	<p>表B 平行を弁別することができる。</p> <p>表A 理由をつけて平行を弁別することができる。</p>
	2	○平行な直線の間の距離は、一定であることを理解する。 ○平行な直線は、他の直線と等しい角度で交わることを理解する。	<p>&lt;平行な直線のひみつをしらべよう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平行な直線をずっとのばしたらどうなるかな</li> <li>平行な直線にななめに直線をひいてできる角度を調べよう</li> </ul>	<p>知B 平行な直線の間の距離は、一定であること、平行な直線は他の直線と等しい角度で交わることを理解している。</p> <p>知A 平行な直線の間の距離は、一定であること、平行な直線は他の直線と等しい角度で交わることを確実に理解している。</p>
	3	○平行な直線のひき方を理解する。	<p>&lt;平行な直線のひきかたを考えよう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>分度器が使えるかな</li> <li>三角定規はどうか</li> </ul>	<p>表B 平行な直線をひくことができる。</p> <p>表A 平行な直線をどんな方向でも正確にひくことができる。</p>
	4	○平行や垂直を使って活動する。	<p>&lt;平行や垂直を使って遊ぼう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平行や垂直で迷路をつくったよ</li> <li>紙テープでもようを作ったよ。</li> <li>身の回りから平行なもの・垂直なものをさがしたよ。</li> </ul>	<p>関B 活動に意欲的に活動している。</p> <p>関A 垂直や平行のよさに気づきながら意欲的に活動できる。</p>

いろいろな四角形	1	○ 台形と平行四辺形の定義を理解する。	<p>&lt;長方形の色紙とものさし・三角定規を使って、四角形を作ろう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ こんな四角形ができたよ</li> <li>・ いろいろな四角形ができたよ</li> </ul>	<p>関B いろいろな四角形をその特徴に応じて弁別しようとしている。</p>
	2		<p>&lt;できた四角形を仲間わけしてみよう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平行があるかないかで考えよう</li> <li>・ 直角があるかないかで分けてみようかな</li> <li>・ 辺の長さで分けてみようかな</li> </ul>	<p>関A いろいろな四角形をその特徴に応じて意欲的に弁別しようとしている。</p>
	3		<p>&lt;辺の並び方に着目して、仲間わけしてみよう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平行があるかないかで分けてみよう</li> <li>・ 平行が1組か2組かで分けてみよう</li> <li>・ 平行がないよ</li> </ul>	<p>知B 台形と平行四辺形の定義を理解している。</p> <p>知A 台形と平行四辺形の定義を確実に理解している。</p>
	3	○ 平行四辺形の性質を理解する。	<p>&lt;2つの平行四辺形を使って平行四辺形のひみつを調べよう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 角の大きさはどうか</li> <li>・ 辺の長さはどうか</li> </ul>	<p>考B 辺の並び方、辺の長さ、角の大きさに着目して平行四辺形の性質を考えている。</p> <p>考A 辺の並び方、辺の長さ、角の大きさに着目して平行四辺形の性質を考えノートに分かりやすくまとめている。</p> <p>知B 平行四辺形の特徴、性質を理解している。</p> <p>知A 平行四辺形の特徴、性質を他の対比しながら確実に理解している。</p>
	4	○ 平行四辺形のかきかたを理解する。	<p>&lt;平行四辺形のかきかたを考えよう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分度器を使おうかな</li> <li>・ 三角定規を使おうかな</li> <li>・ 三角形のようにコンパスでかけるかな</li> </ul>	<p>表B 平行四辺形を手順にしたがってかくことができる。</p> <p>表A 平行四辺形を2辺の長さが与えられれば、正確にかくことができる</p>
5	○ ひし形の定義と性質を知る。 ○ ひし形のかきかたを理解する。	<p>&lt;同じはばの長方形の紙を重ねてできる四角形はなんだろう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4つの辺がすべて等しいよ</li> <li>・ 平行だ</li> <li>・ 向かい合っている角の大きさが同じだ</li> </ul>	<p>知B ひし形の定義、性質を理解している。</p> <p>知A ひし形の定義、性質を確実に理解している。</p> <p>表B 手順にしたがってひし形をかくことができる。</p> <p>表A ひし形の定義や性質を使って正確にかくことができる。</p>	

	<p>6 7</p> <p>○対角線の意味を理解する。 ○いろいろな対角線に関する性質を理解する。</p>	<p>&lt;四角形の向かい合った頂点を直線でつないでみよう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対角線なんだ</li> <li>・ 長さはどうかな</li> <li>・ 2本の対角線の交った点からの長さはどうかな</li> <li>・ 角の大きさはどうかな</li> </ul>	<p><b>知B</b> いろいろな四角形の対角線の特徴を理解している。</p> <p><b>知A</b> いろいろな四角形の対角線の特徴を対比させながら確実に理解している。</p> <p><b>表B</b> 対角線を用いて、四角形をかくことができる。</p> <p><b>表A</b> 対角線を用いて、正確に四角形をかくことができる。</p>
<p>まとめ</p>	<p>1 2</p> <p>○学習のまとめをする。</p>	<p>&lt;いろいろな方法で四角形を作ろう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パターンブロックを使って四角形を作ってみるよ</li> <li>・ 折り紙で四角形をつくってみるよ</li> <li>・ 同じ直角三角形を4枚使って、四角形を作ってみるよ。</li> <li>・ 中心が同じ、大きさの違う円を2つ使って四角形を作るよ</li> </ul> <p>&lt;練習問題をしよう&gt;</p>	<p><b>関B</b> いろいろな四角形の定義を理解して、作ったり仲間わけしたりすることができる。</p> <p><b>関A</b> いろいろな四角形の定義を理解して、正確に作ったり仲間わけしたりすることができる。</p>

5. 本時の学習 ( 9 / 16 )

(1) ねらい

- ・台形・平行四辺形の定義を理解する。

(知識・理解)

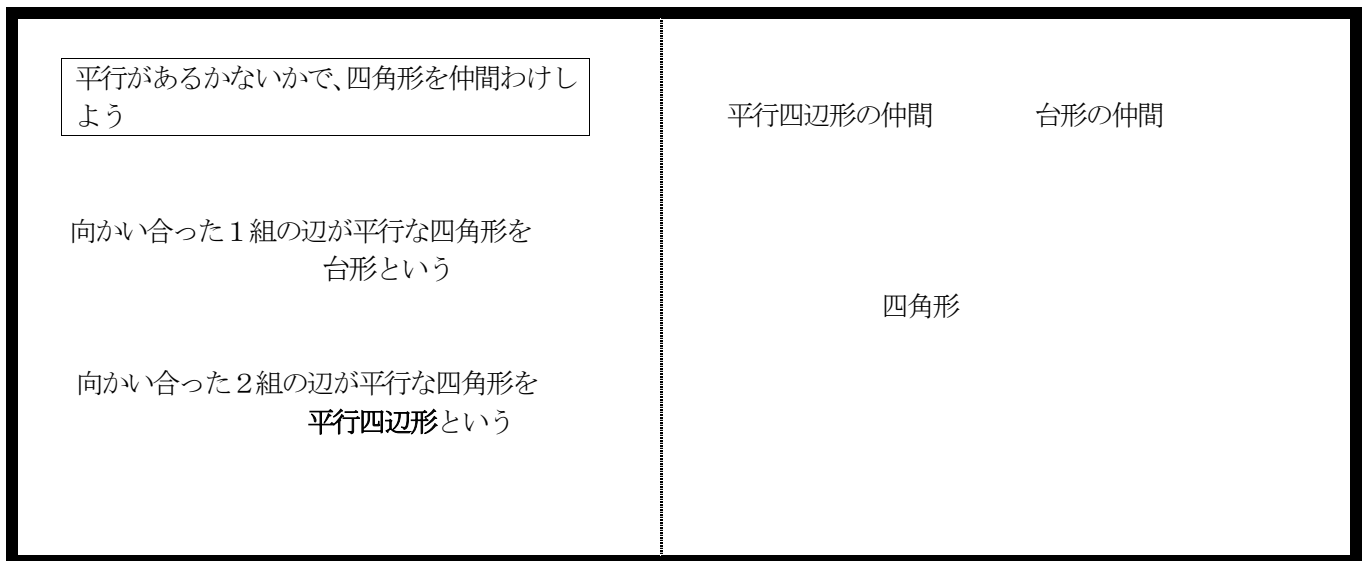
(2) 学習の流れ

学習活動	時	教師の働きかけと予想される児童の反応	評価・支援
1. 本時の課題をつかむ	3	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">平行があるかないかで、四角形を仲間分けしよう</span>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 辺の並び方、平行に着目して仲間分けすることを確認する。</li> <li>・ 平行かどうかを三角定規などを使って調べ、平行な辺同士に同じ色をつけておく。</li> </ul>
2. 課題を解決する	10	○自分の考えで仲間分けしてみよう <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平行があるかないか</li> <li>・ 平行が2つあるのと1つあるのもあるぞ</li> <li>・ 平行が1つもないよ</li> </ul>	
3. 友達と交流する	10	○友達の考えと自分の考えをくらべてみよう <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平行があるかないかでわけたよ</li> <li>・ 平行が1組あるか2組あるかで分けたよ</li> </ul>	
4. 全体で交流する	5	○グループで交流してどうだったかな <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達と同じだったよ</li> <li>・ 平行があるかないかでわけていたけど、あるの仲間さらに分けることができたよ</li> </ul>	
5. 台形と平行四辺形の定義を知る	5	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">向かい合った1組の辺が平行な四角形を台形</span>  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">向かい合った2組の辺が平行な四角形を平行四辺形</span>	知B 台形と平行四辺形の定義を理解している  知A 台形と平行四辺形の定義を確実に理解している
6. 台形と平行四辺形が分かる	10	○ 四角形の中から台形と平行四辺形を見つけよう <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">これは平行四辺形の仲間だ。 これは台形の仲間だ。 これは台形でも平行四辺形でもない。</span>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平行な辺が上下にない四角形でなかなか台形や平行四辺形と認められない場合には、図形を回転させる。図形の位置や方向に関係ないことに気づかせる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(B→A)</p>
7. 学習をふりかえる	2	○ 今日の学習はどうだったかな。ふり返しカードに書こう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ たくさんの友達の意見がきけたよ</li> <li>・ 発表ができたよ</li> <li>・ 平行四辺形と台形がわかったよ</li> <li>・ やる気いっぱいできたぞ</li> <li>・ たくさんの友達とかかわることができたよ</li> <li>・ 平行四辺形を周りからみつけてみよう</li> <li>・ 台形をみつけてみよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平行がいくつあるか分からない場合には、平行同士の辺に同じ色をつけさせる。色分けしていくことで平行の数に気づかせる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(C→B)</p>

(3) 本時の視点

- ・ 自己評価カードが子供たちのやる気を出させるために有効か
- ・ 一人一人が自分の考えを話せる場が保障され、友達とかかわって学ぶことができていたか

## 板書計画



## 事前準備

- ・ 子供が作る四角形に平行四辺形2つ、台形が2つあるように配慮
- ・ 仲間わけするときのシートをどうするか  
色画用紙に丸をかこって観点をかくようにする  
四角形を白画用紙に作る
- ・ 頂点が4つ以外のものがでたら削除するようにする。
- ・ 長方形と正方形は前時のうちにはずしておく・・・(1時間目の仲間わけのときに・・・)
- ・ 前時に今度は辺の並び方で仲間分けすることを確認しておく
- ・ 長方形と正方形は、どの仲間にはいるか発言が出たら、平行がいくつあるから平行四辺形のなかまだねとおさえ  
ておく

## 1. 単元名 たしざん

## 2. 目標

- ・数の構成や10の補数などの学習経験を生かして、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算のしかたを進んで考えようとする。(関心・意欲・態度)
- ・20までの数の構成や10の補数に着目して計算の仕方を考える。(数学的な考え方)
- ・1位数どうしの繰り上がりのある加法計算ができる。(表現・処理)
- ・1位数どうしの繰り上がりのある加法計算のしかたを理解する(知識・理解)

## 3. 指導にあたって

## (1) 教材観

本単元は、1位数+1位数、10+1位数及び3口の加法の学習に基づいて、1位数に1位数をたして繰り上がりのある加法計算の方法について学習するものである。繰り上がりのある加法の学習は、繰り下がりのある減法と共に、次学年以降で学習する加法の基礎となるもので、第1学年の大変重要な内容である。

ここで扱う計算は1位数+1位数であるが、繰り上がるところで10のまとまりを作る、つまり「10の補数」の考え方のよさに気付くことがポイントとなる。そこで、導入では既習の計算との違いに目を向け、「答えが10より大きくなる」という見通しがもてるような提示の工夫をしたり、10のまとまりを意識しやすい具体物や半具体物を操作することを取り入れたり、10の補数が作りやすいように、被加数が9, 8, 7の場合から導入したりなどし、10の補数を見つけて加数を分解する考え方のよさを十分に感じ取ることができる単元構成にしたい。

また、筋道を立てて計算の仕方を説明する場を設定することで、「考える力」や「考えようとする態度」を育てることを大切にしたい。

## (2) 児童観

入学して半年がたち、算数科のみならず、他教科での学習の成果により、大事なことを落とさずに聞いて理解したり、自分の思いを話したり、相手を意識して表現したりすることができる児童が増えてきた。関わり合いの中で学ぶことにおいても初期の段階ではあるが、自分の考えを友達に聞いてもらったり、友達の考えを聞いたりする学習形態の楽しさを感じている児童もいる。

当然のことながら、個人差は大きく、前述のような育ちに至っていない児童もいるのが現状である。そこで、その一人一人の姿を丸ごと受け止め、指導していくことを心がけ、その子なりに学習の面白さ、算数の面白さが感じられるようにしていきたい。

## (3) 指導体制と指導方法

1年生は少人数クラス編成であり、1クラス23人で学習を進めている。児童観のところでも述べたように、一人一人を丸ごと受け止め指導していく必要がある1年生にとっては一番慣れ親しんでいる担任やクラスの友達と共にクラス算数の指導体制の中で学習することが望ましいと考える。

指導方法としては、本学級の児童が夏休み明け以来親しんでいるぬいぐるみの「マシェリ君」とのかかわりをストーリーとして指導の中に入れていき、課題意識をもって楽しく主体的に学習に取り組ませたい。また、児童の実態を考慮し、具体的操作を十分に取り入れて計算の方法を工夫し考えることができるようにしたい。

## (4) 評価部会とのかかわり

部会テーマ 授業に生かす評価方法

部会の柱 やる気が出る評価方法

評価を生かした授業づくり

## ○1年生 前期の反省から

生活全体において一人一人の育ちの差が大きい。そのことを大事にするあまりに教科としての評価が曖昧になってしまった。

課題1. その時間に評価する観点を絞る

課題2. 縦(上級学年に向けて)のつながりを意識し、1年生なりの自己評価の仕方を模索する



課題1について

- ・本時の学習課題の工夫  
本授業でいえば、「10のまとまり」に目を向けているかどうか把握しやすい課題を与える。

課題2について

- ・児童が1時間の学習の中で、どのような思考過程で問題解決に向かっているのか把握する手だてとして、マシェリ君へ手紙を書く活動を取り入れた。一人一人の児童が自分の考えを表現する能力を育てると共に、評価に生かすことができると考えた。
- ・1年生にとっては、1時間のまとめとしてその時間の学習内容をまとめることは容易ではない。そこで、その時間に自分が分かったことをマシェリ君に手紙で教えてあげるという方法で1時間の振り返りをさせること試みている。中には、「これはマシェリ君には難しいよ。手伝ってあげるね」など、情緒面の記述の児童もいる。しかし、このような手紙に教師が「ありがとう。こんどは絵を使って教えてくれるとうれしいな」などの返事を返すことで、少しずつではあるが、絵に描いたり、文章で説明するなど記述に変化が見られるようになってきた。
- ・自己評価をする力を育てるためには、1年生からこのような取り組みを続けていくことが必要なのではないかと考える。

4. 指導・評価計画（総時数12時間）

	時	目 標	学 習 活 動	主な評価基準
小 単 元 ①	1	・1位数どうしの繰り上がりのあるたしざんで、自分なりの計算の仕方を考えようとする。	<p>&lt;9+4の計算の仕方を考えよう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場面を読み取り、立式できる。</li> <li>・ブロックを用いて、自分なりの計算の仕方を考える。</li> </ul>	<p>関B 既習の学習を元に、繰り上がりのあるたしざんの計算方法を考えている。</p> <p>関A 既習の学習を元に、繰り上がりのあるたしざんの計算方法を10のまとまりに着目して考えようとしている。</p>
	2	・1位数どうしの繰り上がりのあるたしざんの計算の仕方について友達の考えを聞いたり、自分の考えと比較したりしながら、よりよい方法を見つける。	<p>&lt;8+3の計算のしかたを考えよう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロックを用いて、自分なりの計算の仕方を考える。</li> <li>・いろいろな考え（数えだし、加数分解、被加数分解など）を発表し合い、共通点や相違点を話し合う</li> </ul>	<p>関B 繰り上がりのあるたしざんの計算の仕方について、半具体物を用いて考えようとしている。</p> <p>関A 繰り上がりのあるたしざんの計算の仕方について、半具体物を用いて友達に説明しようとしている。</p>
	3	・被加数が7の場合の繰り上がりのあるたしざんで、半具体物を使って計算の仕方を考え、10の補数関係を用いて計算するよさに気付く。	<p>&lt;7+□の計算にチャレンジしよう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7+(4~9)から自分が挑戦したい問題を選ぶ。</li> <li>・前時までの学習を生かし、自分で計算の仕方や説明の仕方を考える。</li> <li>・自分の考えを友達に説明する。</li> </ul>	<p>考B 「10の補数」という考えのよさに気づき、計算の仕方を考えている。</p> <p>考A 10のまとまりをつくって計算の仕方を説明している。</p>



本時	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>被加数が6の場合の繰り上がりのあるたしざんで、10の補数関係に着目し、半具体物を使って計算の仕方を考えることができる。</li> </ul>	<p>&lt;6+□の計算にチャレンジしよう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>6+(5~9)から自分が挑戦したい問題を選ぶ。</li> <li>前時までの学習を生かし、自分で計算の仕方や説明の仕方を考える。</li> <li>自分の考えを友達に説明する。</li> </ul>	<p>考B「10の補数」という考えのよさに気づき、計算の仕方を考えることができる。</p> <p>考A 10のまとまりをつくって計算の仕方を説明することができる。</p>
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>被加数が5の場合の繰り上がりのあるたしざんで、10の補数関係に着目し、半具体物を使って計算の仕方を考えることができる。</li> </ul>	<p>&lt;5+□の計算にチャレンジしよう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>5+(6~9)から自分が挑戦したい問題を選ぶ。</li> <li>前時までの学習を生かし、自分で計算の仕方や説明の仕方を考える。</li> <li>自分の考えを友達に説明する。</li> </ul>	<p>考B「10の補数」という考えのよさに気づき、計算の仕方を考えることができる。</p> <p>考A 10のまとまりをつくって計算の仕方を説明することができる。</p>
	6・7	<ul style="list-style-type: none"> <li>被加数が5以上の繰り上がりのあるたしざんの理解を確実にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>半具体物を使わずに計算するコツを知る。 9+3=12 12</li> <li>被加数が6以上の繰り上がりのあるたしざんを繰り返し練習する。</li> </ul>	<p>表B繰り上がりのあるたしざんが念頭で正確にできる。</p> <p>表A繰り上がりのある計算が念頭で速く正確にできる。</p>
小単元②	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>1位数どうしの繰り上がりのあるたしざんで、被加数が4以下の計算の仕方を考える。</li> </ul>	<p>&lt;3+9の計算の仕方を考えよう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>場面を読み取り、立式できる。</li> <li>ブロックを用いて、自分なりの計算の仕方を考える。</li> <li>被加数を分解して計算する方法について知る。</li> </ul>	<p>知B被加数を分解して計算する方法を知る。</p> <p>知A被加数分解による計算の仕方を理解している。</p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>被加数分解による計算の仕方を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>被加数分解によるたしざんの計算を繰り返し、練習する。</li> </ul>	<p>表B繰り上がりのあるたしざんが念頭で正確にできる。</p> <p>表A繰り上がりのある計算が念頭で速く正確にできる。</p>
小単元③	1・2・3	<ul style="list-style-type: none"> <li>繰り上がりのあるたしざんについて、計算の仕方の理解を確かなものにし、計算能力を高める。</li> </ul>	<p>&lt;いろいろな計算にチャレンジしよう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>計算カードを使って練習をする。</li> <li>文章問題を解く。</li> <li>様々なカード遊びやゲームなどを通して、計算練習をしたり計算の原理や関数的な見方について考えたりする。</li> </ul>	<p>表B繰り上がりのあるたしざんが念頭で正確にできる。</p> <p>表A繰り上がりのある計算が念頭で速く正確にできる。</p> <p>知B1位数に1位数をたして繰り上がりのある計算の仕方を理解している。</p> <p>知A加数分解と被加数分解による計算の仕方の違いを理解している。</p>

5. 本時の学習（第一次4／7時）

- (1) ねらい 被加数が6の場合の繰り上がりのあるたしざんで、10の補数関係を用いて計算するよさに気付く。  
 (2) 学習の流れ

学習活動	時	教師の働きかけと予想される児童の反応	評価・支援
<p>1. 本時の課題をつかむ                      (マシェリ君からの手紙で学習課題をつかむ)                      &lt;全体&gt;</p> <p>2. 加数を選択する。                      &lt;全体・個&gt;</p> <p>3. 計算の仕方を考える。                      &lt;個&gt;</p> <p>4. 見つけた計算方法について発表しあう。                      &lt;ペア&gt;                      ↓                      &lt;全体&gt;</p> <p>5. まとめる                      &lt;全体&gt;</p> <p>6. マシェリ君への手紙を書く。                      &lt;個&gt;</p>	<p>5</p> <p>10</p> <p>20</p> <p>10</p>	<p>&lt;6+□の計算のしかたを考えてマシェリ君に教えよう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よし、がんばるぞ。</li> <li>・マシェリ君、教えてあげるね。</li> <li>・7+□と同じかな？</li> </ul> <p>○繰り上がりのあるたしざんだからたす数は5・6・7・8・9から選ぶよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの数を選ぶのかな？</li> </ul> <p>&lt;6+□の計算のしかたを考えよう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロックを使おう。</li> <li>・数えてたして答えをだそう。</li> <li>・6と4で10のまとまりを作って計算しよう。</li> <li>・たす方の数に□を加えて10のまとまりを作る方法もあるよ。</li> </ul> <p>○どんなやり方が見つかったかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こんなやり方もあるんだな。</li> <li>・私のやり方と似ているなあ。僕のやり方と同じだよ。</li> <li>・このことを質問してみよう。</li> <li>・10のまとまりを作ればいいんだな。</li> <li>・違う問題でも10のまとまりを使うといいんだ。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>10のまとまりを作るとわかりやすいよ。</b></p> </div> <p>&lt;マシェリ君に手紙を書こう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10のまとまりを作るといいよ。</li> <li>・マシェリ君頑張ってるね。</li> <li>・また、教えてあげるね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マシェリ君からの手紙に本時の課題を含ませておく。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>おかげで、たしざんわかってきたよ。きょうは、6+□をおしえてほしいな。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人に主体性をもたせるために、自分で加数を選択して、別々の問題を解決する形をとる。</li> <li>・考えたり、操作したりする時間をできるだけ確保する。</li> <li>・机間指導をしながら、誰がどのパターンの計算を考えているか把握する。また、10の補数関係の理解が曖昧な子にはヒントカード（10の補数カード）を与える。</li> </ul> <p><b>考B</b> 「10の補数」という考え方のよさに気付き、計算のしかたを考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒントカードやブロック操作盤に貼ってあるを利用し、10の補数に目を向けさせる。(C→B)</li> </ul> <p><b>考A</b> 10のまとまりをつくって計算のしかたを説明することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10のまとまりという言葉を使っている児童の説明を認めながら話し合いを進める。(B→A)</li> <li>・いろいろな問題やいろいろな方法を比較して、10のまとまりを作るよさに気付くように話し合いを進めたい。</li> <li>・手紙に書いてあることから、一人一人がどのような方法で計算しているか把握し、次時の指導に生かす。</li> </ul>

(3) 本時の視点

- ・加数を1つに限定せず、複数設定したことが、「10の補数関係を用いて計算することのよさに気付く」ことにつながったか？
- ・マシェリ君への手紙は児童の思考を評価するために有効であるか？

1. 単元名 あすなる商店街で買い物しよう

2. 単元の目標

- ・ 10のかたまりを利用して、トッピングの数を数え、必要なトッピングの数がわかる【表現・処理】
- ・ 見通しを持って、お店の品を製作し、お店の準備に取り組むことができる【関心・意欲・態度】
- ・ ・お店やさんごっここの活動を通して、「売る」「買う」という行為の一連の手順がわかる。

3. 指導にあたって

(1) 教材観

本児の生活を見ると、保護者と一緒に買い物に行く事はあっても、自分だけで買い物をする ことはほとんどないのが現状である。5年生という学年を考えると、買い物を実生活の中で積み重ねていく、あるいはそのような実体験の場を設定しながら、経験を積んでいくことが望まれる。

昨年度、あすなる学級では生活単元学習「なつまつりをしよう」でお店やさんごっこを体験している。本児は、金魚すくいやさんに取り組み、自分の関心のあるものでお店作りを楽しんだ。お店の準備からとても意欲を持ち、開店時には元気な声で呼び込みをしたり、やり方を説明したりと張り切っている様子が見られた。

そこで、本単元ではそのような意欲的な取り組みを生かさないものかと考えた。ものを買う という立場からだけではなく、売るという立場の中で算数的な目標設定を行い、実物を扱いつつながら実物操作の体験を積み重ねることができる単元にしたいと考えた。お店屋さんの開店準備 をする中で、本児の算数的段階に適した目標を設定し、その体験活動の中でねらいが達成、あるいは近づいていってほしい。

算数的要素としては、品物作りの中で出される指示(必要数の用意)の部分である。必要な 材料を用意したり、品物を作っていく過程で、〇〇をいくつ用意する・作る等といった必然性 が生まれ、数量処理に関わるやりとりができると考えられる。また、実物を扱う場面を設定することで、実物操作の体験を積み重ねることができる単元と思われる。

(2) 児童観

障害の程度や学習・生活の様子は以下の通りである。

氏名	性別	学年	障害の程度 病名等	学習・生活の様子等
A児	女	5	知的障害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 答えが10までのたしざんの計算はできる。</li> <li>・ 100までの数字の読み書きは所々つまったり飛んだりすることができる。</li> <li>・ 何時、何時半がわかる。</li> <li>・ 水のかさについても、大きい、小さいで言い表していたが多め、少なめで言えるようになった。</li> <li>・ 買い物については、保護者が意図的にしている。学校では、昨年の秋と今年の春の遠足のおやつを買いに行った。</li> <li>・ ひらがな、カタカナの読み書きはできる。</li> <li>・ 50ピース程度のパズルができる。</li> <li>・ こだわりが強く、学習にスムーズに入れれないことが多い、最近では少しずつではあるが内容を明示することにより取り組む意欲が見られるようになった</li> </ul>

本児は算数が大好きと日頃からよく言っている。順序数もノートに450まで書いているが、数字をただ順番にならべて書いているだけで、読んだりするのは一致していない。また、17, 18, 27, 28, 37, 38と7, 8がとんだりしていたが、毎日ノートに100までを書いているので100までの読み書きはできる。

(3) 指導にあたって

普段からPCソフト「マルチ商人」「ラスターちゃん」等を使って買い物ゲームを楽しんでいるのでお店やさんへ行くことや買い物をすることには関心が高い。しかし、普段の授業では教師と二人で学習することが多く児童同士がお互いに関わる機会が少なく、生活体験の豊かさもまだまだである。そこで、それぞれの持ち味が出しやすいように配慮しながらお互いに関わりを持ちながら学んでいくよい機会として捉えたい。

本単元では、お店やさんとお客さんの両方を体験し、それぞれの立場でのやり取りを楽しませたい。参

加するだけではどうしていいか戸惑うことも多いので、売る側と買う側の手順の要  
点を押さえたり、やりとりの  
リハーサルを事前に行うなど体験を重ねることで自信を持たせ本  
番に備えたい。また、商品や店作りも雰囲気が出  
るように工夫し、活動に対する意欲が持続で  
きるように取り組みたい。

単元全体としては生活単元学習的側面もあり、お店の商品を作るという意識付けをしっかり  
行い、お店  
屋さんごっこへの期待感と商品作りへの意欲を向上させながら、学習に取り組みせ  
たい。

また、個の実態に応じて、補助教材の利用や様々な投げかけをし、算数的な教科としての側  
面を意識し  
ながら関わりたい。実物を操作していく中で経験が身に付いていくようにし必要が  
あれば難しかった部分を別の  
機会に別の方法で取り組むなどの学習活動の内容の工夫・積み重  
ねを行いたい。

算数的な面では、本児は三桁（百程度）の実物を数える時でも必ず一から数え始め、途中わか  
らなくなっ  
たりすると同様にまた初めから数える。10の固まりにして数えやすくしたり、間  
違えないようきれいに並べ  
たりといった配慮は全くしないため、数え間違いも非常に多い。表  
の中に数字を入れていくような作業ではとても  
正確であるが、実物が相手となるとその力も生  
かせないことが多い。きちんと並んだ実物（秩序だった）は大体  
正確に数えることができるの  
で、バラバラにある実物（無秩序な）をきちんと並べたり、規則性を持ってまとめ  
たりするよ  
うな操作面を大切に、そのような経験を積み重ねながら材料等の必要数の把握や確認を行わせ  
たい。また大きな数を操作するとき、10のかたまりで数えると早く正確に数えられることが  
わかるきっかけ作  
りとしてたい。

(4) 評価部会の柱と本時の関わり

<授業に生かす実態把握の工夫>

個に応  
じた使いやすい段階表  
児童の実態を今までの  
段階表をもとにしながら、より具体的に細かい段階を考えて実態  
を把握することで、無理のない学習活動を  
考  
え  
意  
欲  
に  
つ  
な  
げ  
る  
<実態を生かす指導の工夫>  
個に応じた教  
材・教具の工夫  
「パン屋さんをやりたい」と  
言う本人の思いを大切に、本時ではパン作りの中で数の  
学習を進めることにした。具体物の操作をするこ  
とで数に親しみ、楽しく取り組めると考  
えている。

4. 指導・評価計画（総時数 10 時間）

第1次

〈あすなる 123 合同〉

あすなる商店街をつくろう集会

[生活単元学習 (2 時間)]

第2次

〈個別〉

お店屋さんの準備をしよう

【品物作り】

〔算数 (2 時間) 本時 1 / 2〕

〔お店の飾り・看板作り〕

[生活単元学習 (2 時間)]

第3次

〈あすなる 12 合同〉

お店屋さんの練習をしよう

[生活単元学習 (2 時間)]

第4次

〈あすなる 123 合同〉

あすなる商店街をオープンしよう

[生活単元学習 (2 時間)]

次	時	目標	学習活動	主な評価基準
第 一 次	1	生自分のほしいものを見 つけ、お店を考えること ができる	〈みんなのほしい物はどんなお店にある のかな?〉 ・チップスはおかしやさん ・ミニトマトはどこかなあ ・買い物に行きたいよ	生自分のほしい物を見つけ、 お店を考えられる

②	2	生お店をつくる意欲を持つ	<b>〈あすなろ商店街をつくろう〉</b> ・私はパン屋さんをやりたいな ・お肉食べたい、やき肉屋さん ・何がいいかなあ、ちょっと待って！	生お店をつくる意欲を持っている
	1 2	④ 本時 1/2 ② + ② 1 2 生意欲を持って商品の準備をする 算 10 のかたまりを意識しながら数える	<b>〈お店で売る品物をつくろう〉</b> ・いくつつくろうかなあ ・どんな形にしよう ・材料を数えて用意しよう ・きちんとできたかなあ	生意欲を持って商品の準備をしている 算 10 のかたまりを意識しながら数えている
②	1 2	② + ② 1 2 生意欲を持ってお店の準備をする	<b>〈お店の飾りや看板をつくろう〉</b> ・大きな看板がいいよ ・品物を並べる台がいるね ・かごに入れるとすてきだよ ・しきものもしいてみよう	生意欲を持ってお店の準備をしている
	1 2	② 1 2 生お店の人やお客さんの動きや言葉がわかる 算商品の金額を正しく払う	<b>〈お店屋さんの練習をしよう〉</b> ・「いらっしやいませ」 ・大きな声で言おう ・「ありがとうございます」 ・40 円は 10 円、20 円..... ・80 円は.....	生お店の人やお客さんの動きや言葉がわかっている 算 商品の金額を正しく払っている
②	1 2	② 1 2 生お互いにやりとりしながら楽しく買い物をする 算商品の金額を正しく払う	<b>〈あすなろ商店街をオープンしよう〉</b> ・たくさん売れるといいなあ ・「いらっしやいませ」 ・お金がいっぱい ・たまったね ・何を買おうかなあ ・いくらなの ・お金がたりないよ	生お互いにやりとりしながら楽しく買い物をしている 算商品の金額を正しく払っている

### 5. 本時の学習

- (1) ねらい① 10 のかたまりを利用して、トッピングの数を数え、必要なトッピングの数がわかる  
 【表現・処理】                      ②意欲を持って活動に取り組む【関心・意欲・態度】                      (2)

#### 学習の流れ

学習活動	時	教師の働きかけと予想される児童の反応	□評価・支援
------	---	--------------------	--------

<p>1. お話を聞く</p>	<p>10</p>	<p>○パンやさんのお店の絵を見てみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パンがたくさんあるな</li> <li>・おいしそうだな</li> <li>・いろんながあるんだな</li> <li>・作りたいな</li> <li>・帽子をかぶっているよ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本児は対面で話すのを好まない</li> <li>・横になり話すようにする</li> <li>・店の様子がわかるような絵を見せる</li> <li>・服装などの小道具に注目させながら意欲を高めさせる</li> <li>・帽子をかぶらせてみる</li> <li>・見通しを持たせるためにしばらく自由にさわらせる</li> </ul>
<p>2. 課題をつかみ活動に取り組む</p>	<p>30</p>	<p>&lt;必要な材料を準備してパンを作ろう&gt;</p> <p>○チーズパンを作ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パンを3個置く</li> <li>・さわりたいな</li> <li>・気持ちいいな</li> <li>・やわらかいよ</li> </ul> <p>○材料を準備しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トッピングの数を数えてそれぞれに10個ずつ置く</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 60px; margin: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 60px; margin: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 60px; margin: 5px;"></div> </div> <p>○全</p> <p>部でいくつか数えてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, …, 27, 28, 29, 30</li> <li>・あっそうか10, 20, 30</li> </ul> <p>○パ</p> <p>んにトッピングしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・できたー</li> </ul> <p>○次は豆パンを準備しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パンを3個置く</li> <li>・トッピングの豆をそれぞれに10個ずつ置く</li> <li>・全部でいくつか数えてみよう</li> <li>・1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, …, 10, 20, 30</li> </ul> <p>○パ</p> <p>んにトッピングしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・できたー</li> <li>・おいしいパンになったよ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トッピングの活動に入りやすいように手順書を確認しながら進める</li> <li>・2番の手順書には10を意識させるために10のカードは1個分置いたあとに置く</li> <li>・なるべく10のかたまりがわかりやすいように置かせる</li> <li>・自由に数えさせる</li> <li>・1, 2, と数えたら、10のかたまりに注目させる</li> <li>□10とびずつで数えることができたか</li> <li>・できたらほめる</li> <li>・意欲が持続するようはげましの声かけをする</li> <li>・手順書を置く</li> <li>・2回目には10のカードは置かない</li> <li>・1, 2, となったら10のかたまりにもう1度注目させるために10のカードを置く</li> <li>□10とびで数えることができたか</li> </ul>
<p>3. 片付けと次時の確認</p>	<p>5</p>	<p>10, 20, 30と数えてパンにトッピングすることができたよ</p>	

	づけよう ・がんばったよ 早く売りたい	○片 ・本時を ・振り返り、がんばり 欲へつなげ る
--	---------------------------	-------------------------------------

(3) 本時の視点（評価部会の柱）

材料を数える時、10のかたまりとして数えられるような教材・教具の用意、又支援であったか。